明治四十二年六月十五日發行（毎月一回十五日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第六巻
第六號

日本基督教女子青年會

151

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

次號は夏期講習會號とし七月末發行すべく紙數も平生に倍加すべし

明治の女子 第六巻 第六號

目次

講壇

女子青年會夏期講習會

聖書の趣味

主たる心と客たる心

一年のなかば

人に事ふる道德　山本秀煌

史傳

女預言者ヒルデガルド

聖書研究

ピリピ書研究(二)　柏井園

聖書研究のしをり　マクドナルド

靜思の友

トマス、ケムピスの教訓

訪問

河井道子女史の談話

文苑

茅ケ崎より　山内秋生

春雨の日の橋場　大木錦子

女子青年界

内外通信

明治の女子定價

部數	定價(郵稅共)	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

明治四十二年六月十四日印刷
明治四十二年六月十五日發行

發行兼編輯人　東京市麹町區土手三番町十五番地　エー、シー、マクドナルド

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第六巻第六號　（明治四十二年六月十五日）

一年のなかば

何時しか復た青葉涼しく衣涼しき夏とはなりぬ。今年もはや半ならんとす。一年の終に至りて空しく月日を送りたるを悲むを欲せざるものは、今こそ深く思ひ自ら省るに最も良き機會なれ。まして學生に取りては今は一學年の暮にして、過去一年間の進歩を點檢し、感謝すべきは感謝して父母師友の恩を憶ひ、又怠れる處は自ら戒めて之を取り返す工夫をなすべき時なるに於てをや。倘ほ半年を餘せりと思ふなかれ。長き夏休を除けば餘す所は實際一年の三分の一なりと知るべし。又此の前半季に於て友人に對して負へる負債あらば僅なる金にても之を返すことを怠るなかれ。約束したる寄附金あらば此の月に於て少くとも其の義務の半を盡すことを勉むべし。新しき衣を作り新しき書を買ふまへに先づ舊き義務を果たすべし。然らば諸君は熱天礫地に夏休を送らるゝとも猶ほこよなく心の涼しきを感じ給ふべし。神我に近きことを感ずるならん。然して又自ら思ふべし、神の前に幾何の恩惠を受けしかを。此の美しき天地に置かれ、晨の淸き空氣を呼吸し、日沒の莊嚴なる空に對し、夜の嚴肅を和ぐる星の光を戴き、健康にして日々を過ごすさへ數へ難き恩なるに、此の天地を造り力を以て之を治め愛を以て之を育てたまふ神を知り、否知るべく導かれて之に仕へ之を拜し、喜にも哀にも人知れぬ心の底を訴へて導きを願ひ奉るを得る、これ何等の特權なるぞ。あゝ我れ適當に此の恩惠を憶へたりしや。此恩惠に報いんため爲すべき事の多きを覺悟したりしや。良き行と親切なる言によりて神の榮を顯し惠を人に分つの機會を失はざりしや、否却つて人を躓かすことをせしにあらずや。もし然らば神よ赦し給へ。草も木も青々として暢び茂り榮ゆるこの時節に於て我が靈魂も亦美しく又暢びやかに生長して秋の果を結ぶ本とならまほし。

主たる心と客たる心

ヘンリイ・ドラモンドの說敎のうちにある一の敎訓の言は良く記憶せざれども主意は終に忘れがたし。敎育を受けし人は、動もすれば家庭にありて賓客の如く生活し、特別の待遇を受くべきものゝ如く心得て日々手を勞し足を運ぶ業や務にたづさはらぬものあり、これ甚だ不可なり、須く諸君の履を磨き諸君自からの室を掃除すべしと。これ此の偉大なる紳士の與へし敎なりしかと憶はる。人に仕へらるゝものゝ如くなら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ず人に仕ふるもの丶如くせよとは基督處世訓の主眼なり。彼は其の弟子がいづれも賓客たる權利を固守して其の師の足をさへ洗ふものなきとき自から主人の役を勉めて弟子の足を洗ひたまへり。カナの婚莚に於て主人方の困却に同情を表するあまり、奇跡を行ふてまで之を助けたまへり。諸君の多くは近く、學窓を去りて家庭の懐に歸り、郷閭の人にならんとす、願くは家に於て又近隣に於て賓客となるを求めずして主人とならんことを求めよ、饗さるのみならず饗す人となるべし。主人となるは煩多きことなり、然れども不平少く勞苦亦樂し。「我がものと思へば輕し傘の雪」とは此の心を咏したるものにあらずや。然れども人は常に主人となることは望み難く又益とならず。我等は行き屆きたる主人となり得べきとともに又同情深く禮儀正しき客人となるの道を知らざるべからず。耶蘇マルタ、マリヤの家に客となれり。敏活なるマルタは臺處にありて饗應の用意に忙しく、落ち着きたるマリヤは師の膝下に座して敎を聽くに餘念なかりき。常にマリヤの如くなるは不可なりとせば常にマルタの如くなるは更に危險なり。始終献立周旋にのみ心を勞し、容を改め威儀を正して自ら敎を受け饗應を受くる心懸なくば、其の靈魂は荒れ俗人と同じき心持を以て神聖なる事をなすに至らん。危險これより大なるはなし、青年會などの首腦となる人周旋の局に當る人は尤も警戒を加へざるべからず。パウロの如く「人を敎へて自ら棄てらる丶ものとならざらんために」修養し努力せざるべからず。

聖書の趣味

二

數年間基督敎主義の學校に在りて日々聖書の語を聽きもしくは敎場に於て聖書を敎へられし人にして、更に聖書の知識なく、聖書の面白き書たるを知らず、學校を卒業し一家の主婦となりて後は全く聖書に遠かりて之を顧ざる人を見ること少なからず。實に殘念の至にして、精神上の損失之より大なるはなし。是の如く聖書の趣味を感ぜしめざる一の原因は聖書を餘り機械的に强制的に敎へ之に對して一種厭忌の情を生ぜしむるものあるに因るべく、此の點につきては敎育の方法に改善を加へ、聖書を死せる書とせず活ける書として讀ましむることを敎るやうにすべきは云ふまでもなきことなるが、學ぶものは亦常に皮相にのみ止まりて眞意を探らんとするの熱心なきも一の理由なり。總て如何なる學問如何なる書籍にても、初より味の出づるものにあらず、沈潜反復、少なからぬ精神を注ぎて後初めて旨き味に達し得べきなり。聖書を讀むもの心を靜め精神を落ち着けしみ〲注意して之に對すれば必ず言ひ難き味の湧き出づるを經驗するならん。聖書は又靈的渴望の無き人には趣味を感じ難き書なり。されば研究するもの時々聖書を離れて靜に己が心の狀態を省察し祈りをなし、靈的の要求明に又た切になりて後、聖書に就かば運動して後食に就くが如き快味を感ずるならん。其の外良き註釋を用ふるも亦聖書に對する興味を促進するの方法なり。外國語を讀み得る人は英獨語の善き譯を參考するに如かず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子青年會夏期講習會

我等は今年の夏期講習會を府下荏原郡羽田(はねだ)村字穴守要館に於て開くことゝせり。東京灣に沿ひたる閑靜なる漁村にして、氣清く風涼しく、眺望に富み、殊に夕照に映ずる富嶽の如きは雄大なる光景なり。我等は甚だ愉快なる數日を此所に過し得べきを期待す。開期は七月十三日より十九日迄なり。少なくとも毎朝專門家によりて指導せらるゝ聖書研究の二級を開くべく、また女子青年會の爲にも集會を開きて同會の發展の爲に種種協議するところあるべし。此上日本に於ける思想界の指導者たる諸先生の講演あるべし。サイアムに於て官立の華族女學校を起し、先頃歸朝せる安井哲子女史も一場の演説を承諾せられたり。各女學校は女子青年會の組織せられたると否とに係らず代表者を送られたし。而うしてすべての年若き女子の來會を歡迎す。種々の講演及び聖書研究によりて得らるる感興とともに、全國三十有餘の諸學校の女學生が一堂に會するところより來る感興は今更喋々するの必要なかるべし。來會者は如何にしてわが同窓の友を人生の眞正なる理想に導くを得べきか、將た如何にして國の爲めに其の責任を盡すべきかにつきて必ず新しき思想を得らるゝことならん。雅各書第一章二十二章『汝ら言を行ふものとなるべし。徒らに聞くのみとなる勿れ』とあるを此會の標語とすべし。

各學校ともに此集會に適當なる代表者を送らるゝ爲めに直ちに種々考慮せらるゝ所あるならん。勿論金錢問題は其の多くの問題中の一ならん。されど或る人々は御相談によりて喜んで其の費用の幾分を分擔すべしと思考す。昨年或る女子青年會に於ては甚だ成功せる園遊會を催ほし、其の純益を以て此の會に必要なる費用に充てたると同時に、青年會の事業を世人に紹介するを得たり。或る人は自ら其の費用を負擔するを得べく、或る場合には教師若くは友人之れを助くるを得ん。講習會につきて照會せられたきことは東京の本部に聞き合はさるべし。來會せらるゝ向は成るべく早く申込まるべし。

午後の親睦會に於ては各學校いづれもいものか寄與することゝなり居る次第なれば、來會せらるゝ方は皆其の用意を忘れられざるやう希望す。米國に於ては之を『大學日』と稱す。我等は各學校が最も愉快なる親睦會を催ほすことを得る爲め健全なる意味に於て競爭せられんことを望む。若し諸學校にして其の校名を記せる旗を造られなば、其の行列によりて來會せる學校の數も知れ、かたがた興味多かるべし。

昨年講習會に臨みたる一人の學生は、其の諸種の集會及び他の學生との交際によりて、大いに勇氣を與へられ、夏期中我が家に歸り、神の爲させんとしたまふ仕事に從ふを得たりといふ。

官立學校の學生は宗教學校の學生に向ひ、四圍の境遇が基督敎的生活を全うするやう勵ますもののなき我等を、同情を以て記憶せよと特別に懇望せり。また他方に於て、宗教學校の學生は、未信者の間にある女子が基督敎的生活を維持することの如何に困難なるか思ひの外なるを知れりといへり。

來會せるものは日沒の頃小さき丘に登り、靜かに熱心に天の父の前に共に祈れり。之によりて新に共同の祈禱の價値を學びたり。

或る聖書研究の後、東京に於ける有力なる女學校の卒業生の一人は、聖書も他の書物の如く組織的に研究し得ることを眞實に了解したりと語り、聖書を如何に用ふれば裨益あると同時に興味あるかを新に會得して去れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

講習會の指導者たちの日々の祈禱會は殊に有益にてありき。特別なる責任を有するものは常に之と共に在りて力を添へらるゝ大なる神によりて凡てのことを爲し得ることを感じたり。

　恐らく開期中の最も有益なる時は、特別なる集會なく、來會者互に自由に相交り相知るを得る時なるべし。我等は庭内靜なるところに相提へて語り合ふ多くの學生を見たり。是れやがて友情の湧き來るところなり。且つ學生が學生に及ぼす感化は最も強き感化なるを疑はず。

講壇

人に事ふる道德

明治學院教授　山本秀煌

（此は去月三十日ペンテコステの日曜日同氏が富士見町教會の禮拜にて說教せられし大意を筆記せるものなり。未だ校閲を經ず。）

『爾曹我を師と呼び、また主と呼ぶ。なんぢらのいふところはなし。我は誠に是なり。我は爾曹の師、また主なるに尙ほなんぢらの足を濯ふ。爾曹も亦たがひに足を濯ふべし』。（約翰傳第十三章十三、十四）

　耶蘇は已に此の世を去りて、父のもとに歸らるゝことの近づいたとき、其の弟子たちとともに晩餐の席に着かれた。これは耶蘇が其の弟子たちとともにせられた最後の晩餐であつた。また最後の饗應であつた。耶蘇は父より大いなる使命を托せられ、父より出でゝまた父に歸へる己が身の偉大なる所以を自覺して居られた。然るに弟子たちは久しく其の敎育を受けながら、其の邊の消息を少しも知らず、精神狀態の如何にも低いのを見られて暗然たると良久しき有樣であつた。

　ユダはサタンに捕へられて己が主を敵に渡さんとて苦心して居る。他の弟子は未だ其の心淸められず、世俗的の野心を燃やし、仲間のうちで誰が豪いであらう、誰が高い位置を占めて權勢を張てあらうなどと互に言ひ爭ふて居たのである。斯るつまらぬ爭ひに氣を腐らせ、宴會の席には必ず行ふべき禮儀なる足を濯ふことを自ら進んでするものがない。耶蘇は彼等の淺間しい心をあはれに思召され、之を愛し之を愛へらるゝところから、自ら僕の姿となつて弟子たちの足を洗はれたのである。かくて我は汝らの先生である。然るに汝らの足を洗ふ。我が實例を示したから何れも之れに倣へと戒められた。

　全體弟子たちが耶蘇について考へて居たことは間違ひが多かつた。耶蘇は何時しか王國を建設せらるに相違ないと信じて居た。其の時には誰が最も大なるものとなるてあらうと想像して居た。然かし耶蘇の國は此の世に屬するものではない。故に斯る野心を逞うする餘地がない。耶蘇は其の誤解を屢ば正された。弟子たちが天國に於ては如何なるものが最も適當かと尋ねたときに幼兒を示し、斯の如く謙遜するものて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あると云はれたこともある。またヤコブとヨハネの母サロメが耶蘇のともに來て、貴方の國に於て此の二人の子を左右に置いて下さいと願つた。是れ其の子の出世を願ひ、權勢ある位置に着かせたいと云ふ母の野心であつたに相違ない。然し耶蘇は其の心を知り、我が得まんとする盃を飲み、我が受けんとするバプテスマを受け得るか。確かに汝らは我が踏む道即ち十字架の道を我とともに行くであらう。されど其報酬は我が與ふるところでない。只神の旨にあると戒められた。之を聞いた弟子たちは大いに嫉ましく思つた。そこで耶蘇は、世の帝王も宰相も將軍も人民の上に權を有つが、汝らは然かすべからず、汝らのうち大ならんと願ふものは汝らの僕となれよ。此の如く人の子の來るも人を使ふ爲めにあらず、反つて人に使はれ又多くの人に代りて生命を與へ、其の贖ひとならん爲めである」と敎へられたことがある。此の精神がなくては天國に於て大なるものとなることは出來ない。多くの人の贖ひとなるのが基督信者の本領である。然るに弟子たちは此の精神が解らなかつた。何うも先入主となるものがあつて、世界的王國のことのみを夢んで居た。何にも彼も之によりて解釋して居た。故に其の意味がもつとよく解る爲めに耶蘇は實行を以て弟子たちの足を洗はれたことである。

斯う云ふやうな謙遜、高い位置のものが低い位置のもの丶爲めに奉仕することは、世間では甚だ重じない。却つて之を輕蔑する。希臘の哲學などにも公義、仁愛、勇氣、撙節、忍耐等は說いてあるが、謙遜の德を認めない。儒敎には之を說いてもそれほど貴んで居ない。一般に之を卑しむ風がある。人に事ふる謙遜とは世の競爭場裡に失敗したものとか、他の壓迫を受けて居るものゝすることと考へて居る。歷史を讀むに一時世に時めきしものが遂に奴隷となり下つて、英雄の末路の甚だ振はない有樣を見てあはれに思ふことがある。力足らず、時利あらずして、反對黨の爲めに屈辱を受けることがある。シーベスの大將エパミノンダスが劍に代ふるに帚を以てし、建國の大政治家が可惜奴隷の姿となる如き、實に同情に堪へない。耶蘇は世に來られて賤い人間に事へ、病人や稅吏や罪ある人の友となりて之が爲めに盡して居られる。之を見ると如何にも御氣の毒に堪へぬ感がある。然かし耶蘇が斯ることをせられたのは他から强ゐられて已むを得ずせられたのではない。其の爲めに天の榮えをも棄てられたのである。此に於てか其の賤しく見ゆることが如何にも貴くなる。大いなる神が人の間に降り、之に事へられる。貴い神が賤い人間とともに住み、其の病を癒し、罪あるものを救はんとせられる。耶蘇は實に之を己が使命とせられたのである。斯うなれば何處に卑しむところがあらう。高いものが低いものに事へるのは却つて美はしいものとなる。

勿論世には大なるものが小なるものに事へ、貴いものが賤しい事をするときに嫌な感の起ることもある。例へば吳起が其の兵の腫物を吸ふて其の心を收攬せる如き、或は秀吉が大谷吉隆の癩病の膿の落ちた茶を啜つた如き、英雄が人心を收攬する心の奥底が見え透いて不快の感を起させるともある。

耶蘇は人望を得やうとせられたならば、其の機會は甚だ多かつた。然かし神の聖旨ならずば、決して何をもせられなかつたのである。されば今此の如きことをして弟子たちの心を得るの必要はない。耶蘇は或るとき『我が汝らを愛せし如く、汝らも互に愛すべし』と云はれた。弟子たちの足を洗はれたのは、全く彼等を思ひ、彼等を愛し、彼等の爲めに盡されたに外ならない。親は其の子の爲めに事へる。其の爲めに卑しいこともする。純潔なる愛からするので、其の間に卑しい心は毛頭ない。耶蘇も斯の如き愛からせられたのである。『我は汝らの師また主なるに尚ほ汝らの足を洗ふ。汝らもまた互に足を洗ふべし』。我々は先生に敎へられた如く互に足を洗はねばならぬ。四世紀頃には敎會に足を洗ふ習慣があつた。それが聖禮典の一つに加へられるに至つたのである。羅馬法王は一年に一度十人の乞食の足を洗ふた。然かし耶蘇の敎へは斯る形式ではない。注解者は、此に同じ形式を執れとの意味はないと云ふ。基督敎は世界のあらゆる人民を救ふ敎へである。其の國の風俗に從ひて常に進歩すべきものである。是れは只だ高きもの、大きなもの、貴きものが、低きもの、小さきもの、賤しきものに誠心を以て事へよとの意味である。人に事ふる高貴なる道德を敎へられたに外ならぬ。

其のとき弟子たちは好く解らなかつたが、後ちペンテコステの日に於て聖靈を感じ、此の邊の眞理が明かに解つて來た。かくて他人に事へ、其の爲めに勇んで自ら犧牲となるに至つたことである。

ウエルスの『二十年の將來』といふ書に、進歩に從つて將來の心理は不幸なものや、病弱のものや、惡しきものは、社會に生存することが出來なくなり、只健康なもののみ存在することとならうと論じてある。然かし基督の精神は此の弱いもの、力のないもの、小さなものに、健康なものが事へなくてはならぬ、之を棄てずして之を高めねばならぬといふのである。世の中にはウエルスのやうな思想が隨分盛んである。不幸なもの、弱いものを壓し付ける。然かし基督は之を救ひ出して段々に引き上げるといふのである。世の中には此の二つの精神が始終爭つて居る。基督の精神が解つて之に感激すれば、人に事へることが出來る。百夫の長が身分のあるをも忘れ、僕の爲めに看病までしてやつた。是れは神に事へるものでなければ出來ぬことである。或る家では僕婢が病氣になつたからとて奧樣が之を追ひ出した。或は之が普通の人情かも知れぬ。然かし百夫の長は然うでなかつた。眞に人を愛したのである。グラッドストンが己が御者を病院に入れ、其の危篤の報に接するや、内閣の會議をすてて病院に驅け付け、其の枕邊で聖書を讀んでやつたことがある。基督の心を以てするにあらざれば斯うは出來ぬ。兎角政治家が人に事ふるも、其の動機を質せば矢張り己が爲めからすることが多い。眞に人の爲め國の爲めに盡すものは少ない。基督の精神の行はれぬところには、何うしても己を棄てて他人の爲めをすることは行はれない。貧民や不幸の民を追ひ除けるのが人の常の有樣である。我々即ち神の子たり、天の使命を有するもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、基督の心に倣ひ、斯の如き有樣より此の世を救ひ出し之を立派なものとせねばならぬ。

然らば實際何うすれば斯る精神になり得るであらう。世の靈は人を低くし、基督の靈は人を高くす。其の精神に倣はんと欲すれば、只聖靈の感化を受けるの外に途はない。昔しペンテコステの日に於て弟子たちは大いに聖靈を受け、基督の精神を心に徹底せしめ、人の爲めに盡して主に從ふことが出來るやうになつた。我々の周圍には實に多くの足を洗ふべき事柄がある。聖靈の導きにより眞に基督の心を以て心とすることが出來、之を遂行したいものである。

史傳

女預言者ヒルデガルド

歐羅巴中世紀の基督教會史には、豪い女子が所々に起つて神の國の爲めに立派な活動をなして居る。此に記さんとする預言者ヒルデガルドも其の一人である。彼女は千九十八年獨逸のロツケルハイムに生れた。其の父は或る伯爵家の家臣で彼女は幼い頃伯爵家の令孃とともに、附近のディセボオデンベルヒの女子修道院に入つて學問した。彼女は生來宗教心に富み靈的のことに熱心であつたと同時に、其の身體も餘り強壯でなかつたところから、其の生涯を献げて宗教のことに盡すに至つたのである。三歳の頃から已に地のことよりも天のことを幻象に見たと云ふほどで、彼女は殆ん絕えず幻象を見て之に導かれて居たのである。女子修道院に於て彼女は非常に愛せられ、其の院長の死後は撰ばれて其の後を繼ぐに至つたまでに尊敬せられて居た。彼女が撰ばれて修道院長となつたのは、三十八歳のときである。

彼女の功績と勢力とは當時の獨逸には傑れて豪いものであつた。諸方の貴族の令孃たちは來つて其の教育を受け、靜かなる家庭に居ても、また平和なる生活に於ても、或は戰亂の間に處しても、信仰厚く德高き婦人として、殊に獨逸婦人の美風を發揮するやう養成せられたことである。斯の如く來り學ぶものが多いので新たに修道院を建てるか、若くは他のものを合併せねば到底收容し切れぬ有樣であつた。然かし教育者としての彼女の功勞は只だ修道院のうちの靜かな勞役として知らるゝに過ぎない。而かも一方に於て彼女は多方面の人を引き着ける力を有して居た。凡ての基督教國の人心を收攬し、國王と親しくし、法王を始め、監督や、司祭や、貴族や、學者などの交りを結んだものは擧て數ふべからざるほどである。彼女は新約の女預言者と稱せられ國民に對する神の使節として尊敬せられて居たのである。

彼女の靈的經驗は尋常のものでなかつた。前述の如く其の身體は餘り壯健でなく、殆ど常に病人であつた位である。殊に神經が良くなかつた。まだ三歳になるかならないときに光の海が己が靈魂を蔽ふ幻象を見た。七歳にして修道院に入つ

たのであるが其の後も、彼女は繰り返し〳〵斯の如き幻象を見たのである。其れは他の人の見たことも聞いたこともないやうな驚くべきものであつたらしい。彼女は自ら之を見たことを非常に恐れ、其の幻象のうちに學んだ事柄は決して口外しなかつた。齡五十歳になつて、其の生涯の終りに近いたと思はれた頃に及び、始めて之を語つたのである。彼女は其れを神が自ら彼女に語られたものと考へて居た。故に彼女はまた神が示したまふたことを多くの人に宣言する責任がある。然かし彼女は半は其の思想が亂れるか或は弱るかすることを恐れ、また半は其の幻象の性質が一種特別であつたから、堅く其の口を緘んで居たのである。遂に彼女は重病に陷り、一命も危いといふ有様となつたので、多年口を緘んで收めて居た事柄を公けにせねばならぬ場合となつた。それが爲めに三十日間ほど煩悶した。かくて彼女は自ら次の如く記して居る『燒き盡すところの火は我が脈管のうちに燃えぬ。我が靈魂は肉體のうちにありしか、或は其の外にありしかを知らず。我は痙攣を起して身動きもせず打ち臥したり。我が先輩も子供(學生若くは尼)も身寄りのものも、我が床の傍に立ちて泣けり。彼等は我を死にたりと思ひしなり。されど我は其のとき天の萬軍を見、喜ばしき聲もて「汝の時は未だ來らず、女よ起きよ」と彼等の叫ぶを聞けり』。かくて彼女は眼を開き、病は癒えた。此に於て彼女は躊躇することが出來なくなつた。平生彼女が懺悔を爲すところの敎師のもとに行つて、胸中に收めて居た考へを陳べた。其の敎師は且つ驚き且つ疑ひながら、彼女が語ることを其の儘書き記して、上級の敎師のもとに送り更に大監督のもとに廻はした。其の後間もなく(千百四十八年)敎會の會議が開かれ、此の問題が提出せられた其の頃非常な勢力を有して居たベルナルドは數人の監督とともに此地方を旅行して、ヒルデガルドの啓示を記錄した書を讀んだ。彼等は彼女の理智にも品性にも敬服し、預言の賜ものによりて神が彼女に啓示を與へられたることを世界に表白した。法王及び會議も之を認めたのである。法王は特に祝意を表する書翰を送つた。パリ大學は是れ人の言にあらず、神の啓示なりと口を極めて稱讃した。而うして彼女の書は後年此の大學に保存せらるゝこととなつた。

其の啓示とは如何なるものであつたか。彼女自ら云ふところに據れば次の如きものである。曰く『基督降生千百六十二年我が齡六十二年七ケ月なりし時、天開けて輝ける光の波降り我が腦、我が心、我が胸は其の焔もて充され、我を燒くにあらず太陽の柔き光線の如く温めらるゝを見たり。此の時俄かに我は詩篇、福音書、及び新舊兩約書の意義を了解するを得たり。されど我は言辭、綴り、及び文法等につきては覺知せざりき』と。更に彼女はベルナルドに書き送つて曰く『我は深き心のうちに詩篇、福音書、及び其の他の聖書の智識を收む。是れ輝ける光明の如く我が胸、我が心に徹底せる幻象にて其の深き智識を示されたるなり。されど其の啓示は我が讀み得るところの獨逸語にてはあらざりき』と。且つ其の天よりの光につきて說明して曰く『此の光明のうちにある間は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

凡ての悲みも苦しみも我を去る。其のとき我は年老いたる婦人にあらず、再び年若き娘に立ち返るなり。我は覺醒せる感覺にて之を見たり。雲のうちより太陽の光の漏れ出づる如く輝きたり。されど其の長さ高さ廣さを記すこと能はず。我は之を活ける光明の影と名づく。宛かも日や月や星が水面に其の影を映すが如く、言語及び文章、雲のうちより我が上に閃き來れり。斯る幻象によりて我が見且つ學びしことは、容易に忘るべからず。其の見るも、聞くも、知るも、尋ぬるも、刹那のことなり。我が語りまた書くときは、光明のうちにて我が聞きし言を用ゆ。されど我は之を人の口より出し言として聞かず。イイサアのうちに雲の如くたゞよふ言の焔として聞けり。此の光明は片時も我が靈魂を去りたることなし」と

當時の敎會は基督の恩寵を說くこと少なく、罪ある人は神と和ぐ爲めに遙る〳〵エルサレムの聖地に巡禮するものが多かつたのである。人民は傑れた宗敎家の現はれるのを渇望して居た。ヒルデガルドは聖書を以てすべての則とし、基督の恩寵が只だ一つの救ひの力であることを說いた。此は當時の餓えたる人心に大いなる滿足を與ふる福音であつた。加ふるに彼女の非凡の天才と信仰とを以てしたから、多くの人が蓊然として歸依したのも不思議はなからう。彼女は苦めるものを慰め、悖れるものを戒め、爭ふものを仲裁し、一社會若くは國民の罪を責むると同時に個人の其れをも責めた。監督に向つては其の部下の敎師に親切ならんことを諫め、司祭どもに向つては謙遜にして從順に、互に一致して基督を愛すべきことを勸めた。或るとき一人の年若き女子が如何に苦行しても誘惑に勝つことが出來ないと煩悶して居るのを見て、ヒルデガルドは新しい誘惑に導く斷食などをするよりも、熱心に己が日常の義務を盡し、必要なる仕事をなして神に事へた方がよいと敎へたことがある。佛蘭西や獨逸で迫害された數十の信者が、彼女の德を慕つて遣つて來たこともある。

彼女が皇帝バルバロッサに送つた書翰の一節に左の如き句がある。『いと高きところに在す審判者は此等のことを陛下に告らる。聽かれよ。陛下の如き一個の人間、即ち王者が、人類の爲めに甚だ必要なるは如何にも驚くべき次第なり。王者高き山の上に立てり。谷を見下し、人の苦痛を見、其の右の手には杖を持ちて凡ての事を義しく處理し、全く荒れ果てたる地に綠なす草木を生ぜしめ、眠れるものを醒ませり。彼少時眼を閉づれは、見よ谷は黑雲を以て蔽はるゝなり。大鴉は食を求る爲めに此所彼所に飛ぶ。王よ、警醒せられよ。注意して自らを顧られよ。陛下の地には瞞着者群れ集へり。掠奪者と狂熱家とは神の道を破壞せり。陛下は貴き名を有せらる。陛下は以色列の王なり。陛下若し一度にても愚なることを爲さるれば諸王の王の眼陛下の上に注がるべきを考へられよ。情慾の道を避けて、基督の勇士たれ。貪慾を遠けて中庸を選ばれよ。すべて陛下に關する事柄につきては先見の明を有せられよ。我夜の暗に取り圍まれたる幻象の裡に陛下を見たり。陛下が地上を治むるは束の間のみ。神は決算を命ぜらるべし。其の恩寵陛下を離るゝとなきやう生活せられよ。』彼女が王者

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に對しても意氣の如何に壯んなりしかを察することが出來る。彼女は虛弱なりしに係らず、多くの旅行をなし、凡ての階級のものに屢ば說敎し、耶蘇の葬られた墓を異敎徒の手より奪ひ返すやう鼓舞した。彼女は幻象の現はれて居る間演說した。貴族も武士も人民も聖徒として彼女を尊んだ。然かし斯る成功の曉にも自らは臆病にして憐むべき女と云つて居る。彼女は八十四歲の高齡の達し、千百七十九年九月十七日に此の世を去つた。自然主義に感ぶれて、高尙な理想や淸き道德を等閑にする傾きある今日、斯の如き婦人に學ぶべき點が少なくなからうと思ふ。

聖書の研究

ピリピ書研究（二）　柏井園

改譯及び註解

第一章九　又汝等の愛智識と總ての識別の中にいよいよ增し加はりて、十最も優れたる事を辨へ潔く躓すことなくしてイエスキリストの日に至り、十一イエスキリストに由れる義の實を充せて神の榮光と讃美を顯さん事を祈る。

汝等の愛　或人はパウロに對するピリピ人の愛なりと云ひ、或人は神に對する愛なりと云ふ。されど此處はマイヤア、ヴヰンセント等の解釋に從ひピリピ人相互の親愛なりと解する方穩當ならん◎識別　此字は新約書中此の處にのみ用ひられたるものにして、事に臨んで斯くなすべし斯くなすべからずと適當に判斷し得る力を云ふ◎中に　ニコライの譯には「汝等の愛はますます智識と凡ての心情に長じて」とあり。かく愛生長して智識となると解するも亦一つの解釋なり。然れども愛が智識の中に生長する意に解するも優れりとす。智識を離れたる愛は生長進步せず、理性の光に養はれて愛はますます高尙なる愛となるなり◎最も優れたる事を辨へ　と譯しある原文を或る有力なる學者等は「異れる事物を試驗す」と譯す若し然らば事に處して細かに善し惡しを差別する意味にて云へるなり。されど余が用ひし譯に從へば最も高尙なる理想を知り之を標準として事の優劣を辨別する意なり◎潔く　原語は日光にて檢査するの意あり。光明正大にして暗き處なきを云ふ◎イエスキリストの日　キリスト再び世に降り給ふ日を指す◎義の實　義の實なる言葉は舊約聖書の箴言九〇三十及びアモス六〇十三に見へたり義と云ふ果實なり。此處に義とあるは道德的正義の意味にして信仰に由りて義とせらるゝなど云へる場合の義とは異り。

パウロが人の爲に祈りせる言葉其の書翰の中に見へたり此の外にはコロサイ一〇九至十二、エペソ一〇十七至十九同三〇十六至十九にあり何れも先づ知る事の深くなるやうに祈り居れり、即ち神の旨を知りキリストの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

愛を知る爲に祈るなり。然して終りには信仰の實を結びて品性と德の完成する事を祈り居れり。此は我等已れの爲に祈る時又人の爲に祈る時模範とすべき處にあらずや

二　鎖に繋がれたるパウロ

パウロは更に進んで自己の境遇と其の苦心をば、親しき友に語る如く打あけて語るなり。エペソ六〇二十一に於てパウロは自身の事を『鐵鎖に繋かれたる大使』と云へり、此の數節はキリストの大使が如何なる心を以て縲絏の裡にあるかを描き出して眼前に髣髴たらしむ。

十二兄弟よ汝等が知らんことを望む。我に在りしことは、反つて福音の進歩を助けしことを。十三我が縲絏はキリストに在りて、遍く近衛兵と他のすべての人に顯れたり。十四又主にある兄弟の多くの者は我が縲絏に由りて信を得恐るゝ事なくますます多く神の言葉を語る。

我に在りし事　パウロが幽囚の身となりし事を云ふ。此事は傳道の妨となるべく想はるれど事實は然らずして反つて福音の傳はる事を助けし事實はパウロが以下語らんとする處なり、◎キリストに在りて　元の譯には我が縲絏はキリストの爲なる事と譯しあり、これは原文とは異れども意味は大體如此ものなるべし◎近衛兵　ニコライ譯には公廨と譯し、バプテスト教會譯には王宮と譯す何れも所據あり、されども近衛兵と譯する方適當なるべし。元の譯には近衛兵にあらず近衛兵の陣營と解しあれどもモールの說に由れば羅馬に於てプライトリアンなる言葉は場所を表さずして團體を表したる事明なりとあり。使徒行傳二十七〇十六を見ればパウロには一人の兵卒と共に居る事を許されたりとあり。近衛兵一人宛交代してパウロを監護し長き鎖の一端はパウロの腰に他の一端は兵卒の腰に結び着けられたり。一時として獨にて居る能はざるは、パウロの如き人に取りては堪へ難き苦痛なりしならん。況や其の兵卒等は必ずしも皆禮を知れる者にあらざるに於てをや。然るにパウロの偉大なる精神と信仰は此の如き境遇をも變じて傳道の機會となせり。吉田松陰は己を護送する獄卒に向つて勤王の大義を說きしとかや、それにも益して適切なる實例はモールが『ピリピ書研究』の四十八頁以下に載せたるニコラス、リドレーの話なりリドレーは十六世紀の改革家の一人なるが殉教する前オリスフォルドの市長の家に拘禁せられたりこの市長夫婦は頗る頑固なる人等なりしがリドレーの感化に由り其信仰も性行も共に改まりたりと、パウロも亦獄中に於て　精神上の勝利を得し事と思はる◎第十四節はパウロの境遇が他の信者を鼓舞奬勵せる事を云へり益々多くと譯しある原語は益々恐るゝ事なく、とも譯せられ得べし然れど改正英譯等に從ひて斯く譯せり、益々多くとは益々繁く且つ公然と語る事なり。されば恐るゝ事なき事も自然にこの中に含まれ居れり。

十五或人は嫉みと爭より、或人は善意よりキリストを宣ぶ。十六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此は我が福音を辯證する爲に立てられし事を知り愛より之をなし、彼は誠ならず爭よりキリストを宣べて我が縲絏の苦みを起さんとす。

パウロに勵まされて傳道せる人の中には其の動機必ずしも純粹ならず、競爭心に驅られて傳道せる者もありしと見ゆ。嫉みと爭よりキリストを宣べし人々とは如何なる種類の人なるか。これをユダヤ敎的基督敎を宣ぶる者なりと說く學者少なからず（ライトフート、マイヤア、ツヰゼッケル等）。然れども果して然らばパウロが十八節に之を喜ぶと云ふ筈なし。これはパウロの羅馬に來らざる前羅馬の敎會にて多少勢力を振ひし小さき大將株の人々にてパウロの勢力を忌み其の感化を妨げんとして種々の運動をなせし者と察せらる◎誠ならず　其精神の純粹ならざるを云ふ。

十八さらば如何、僞にもあれ眞にもあれ何れの道にても宣べらるゝはキリストなり、我れ之を喜ぶ、又常に喜ばん。十九汝等の祈りとイエスキリストの靈の供給に由りてこれ我が救となるべきを知るが故なり。二十これ我れ何事にも耻を蒙らず、總ての事に勇ましく、生くるにも死るにも、常に然る如く今キリスト我が身體によりて大きくせられんこと我が常に期し又望む處なり。

この數節はパウロの偉大なる精神と弘き度量とキリストによりて養はれたる柔和と忍耐を見るべし◎喜ばん　喜びの繼續する事を云ふ◎靈の供給　靈はパウロに苦痛を變じて鍛錬の機會となす力を供給す◎我が救となる　とはアイヤアの解せる如く我がため有益なりとの意に止まらず、又ヴァヰスの說の如く永遠の滅亡より免かれしむる事に限らず。救の意味廣大なり。キリストの靈に由りて潔められ、艱難に由りて敎育せられ神の國に入るに適しき者となすこれ救なり。二〇十二に救を全ふすとあるを參照すべし。◎耻を蒙らず　希望水泡に歸して面目を失するが如き事なきを云ふ。◎勇ましく　大膽に且卒直に◎我が身體によりて大きくせらる　信者の偉大なる精神はキリストを大きく人に見せしむ。苦み禁錮せられたるパウロの身體は凸面鏡の如くキリストの姿を大きく見せたり。

聖書研究のしをり

次に示すところは、約翰傳を研究しつゝある人にして、同書を照らす光ともなるべき句を知り、又本文を熟知せんと欲すれども未だ十分に之を學ぶことを得ざるものの爲めに多少の助けとなるべし。讀者が日々之を讀まるゝ便利の爲め每號揭載すべし。之を讀過せらるゝうちに必ず自他を裨益すべき句にして、暗誦せんことを欲せらるゝものを見出さるゝならん。

第一週。

一、	出埃及記	二十〇一—七	誡め
二、	同	二十〇八—十七	同上
三、	馬太傳	二十三〇卅三—四十	誡めに關する基督の敎
四、	約翰傳	一〇一—十一	神の言
五、	詩篇	一〇	品性の詩篇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

六、約翰傳　一〇十二—十八　神の言
七、以賽亞書四十〇廿七—三十一　神の力

第二週。

一、約翰傳　一〇十二—廿七　バプテスマのヨハネ
二、馬太傳　三〇一—十二　同上
三、約翰傳　一〇廿八—卅五　神の羔
四、以賽亞書五十三〇一—十三　同上
五、約翰傳　一〇卅六—四十六　最初の弟子
六、馬太傳　十〇二—三　同上
七、約翰傳　一〇四十三—五十一　同上

第三週。

一、詩篇　三〇　神の光榮と人の威儀
二、約翰傳　二〇一—十二　第一のしるし
三、馬可傳　六〇　耶穌の身體の神殿
四、約翰傳　二〇十三—廿七　首府に於て活動を始む
五、哥林多前書三〇十六—十七　我等の肉體の神殿
六、詩篇　十三〇　神の業と言
七、馬太傳　五〇一—九　基督信者の特性

第四週。

一、約翰傳　三〇一—廿一　新生
二、羅馬書　三〇十四—十七　神の子
三、哥林多後書五〇十四—十七　神に於て新たに造られたるもの
四、加拉太書二〇廿　信者に於ける基督の生命
五、約翰傳　三〇廿二—卅六　光なる基督
六、羅馬書　八〇卅三—卅九　基督より離らるゝことなし
七、哥林多前書十三〇　基督信者の生命

第五週。

一、約翰傳　四〇一—十五　活ける水
二、以賽亞書五五〇一—三　源泉
三、約翰傳　四〇十六—廿六　眞の神拜
四、約翰傳　四〇廿七—四二　基督信者の標語及び業
五、以賽亞書五五〇六—十三　神に從ふこと
六、約翰傳　四〇四三—五四　第二のしるし、病を癒す
七、默示錄　廿二〇一—五　生命の川

第六週。

一、約翰傳　五〇一—十八　第三のしるし、病を癒す
二、以賽亞書四十〇一—五　汝ら慰めよ
三、詩篇　百三〇一—五　病ひを癒すもの
四、約翰傳　五の十九—十九　神の子及び審判者
五、馬太傳　卅五〇卅一—四五　審判
六、約翰傳　五〇卅—四六　基督についての證
七、馬太傳　五〇十一—十六　祝福(品性に對する基督の批評)

靜思の友

トマスケンピスの教訓

此の頃復たトマス、トケムピスの「イミテーション、オブ、クライスト」と讀むで心に觸るゝ言を左に書き付く。

一箇の目標を有し總ての事柄を一箇の主義に歸せしめ總ての事物を一つの光に照らして見る人の心はたしかに定まる所あり、神にありて安ずることを得るなり。

我等の乏しき所は此の信仰生活の統一なり。この故に材料多くして益々混亂を加ふるに過ぎず。パウロと同じく、唯此の一事を勉むと云ひ得るものを見出さざるべからず。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

汝もし靜に退きて祈りをなす習慣を養へば祈ることの甘美なるを見出すならん。然れども不規則に之を爲さば味無く感ずべし。汝の靈的生活の發端に於て良く祈りの習慣を造るならば他日なつかしき友となり、又最も心を爽ならしむる慰とならん。

これたしかに實驗の言なり。物は不規則にすれば重荷となるも、規則正しく爲せば快くなし得らるるものなり。

善き生活は心を靜にす。

一句實に限なき味あり。今や忙しき勤勞の時期終りて靜に休息し得る時期に入らんとす。然れども眞に心を靜にするものはケムピスの所謂善き生活なることを記憶すべし。善き生活は考へ深き生活なり。謹み深き生活なり。

心輕薄にして自己の缺點を思はざるが爲我等は靈魂の悲哀を感覺せず、眞に泣くべきことを徒に笑ふこと多し。善き良心を以て神を畏るる者にあらずんば眞の自由なく眞の喜なし。

我等は一つの過失だに全く勝つこと稀にして又日々改めて善に移ることをせず、故に我等は冷く且つ萎靡するなり。

若し我等一年に一の惡しき習慣を拔き去るならば生活の完全に向つて著しき進歩をなすべし。之に反して救を信じて既に幾年を經たる今に於て信仰の初の頃は今よりも、より良く、より潔くありしことを感ずること多し。

讀み來りて冷汗の脊を濡すを感ぜざるもの幾人ぞ。

靈的の事につきて深く相互に語るは潔に進むにつきて少からざる助となるものなり。俗談を少くし眞面目に靈なる事を語ることを勉むる必要を感せすんばならず。

訪問

河合道子女史の談話

近來の雜誌を見ますと、何れにも花嫁花婿とか或は何々女學校の優等卒業生とかいふ寫眞が澤山出て居ますが、此れは餘りよくない事でありまして、其の爲に女子を誤る事が隨分少なくありますまいと思ひます。雜誌新聞に寫眞や記事や其の人の文章などが出ました爲に、無名の書面が參りまして、御交際を願ひ度いとか文通して貰ひたいとか云ふ樣な事になりまするし、又寫眞に見えて居る服裝などを見て女子は自然に虛榮心を唆のかされるやうな事にもなるのでございますし虛榮――此の虛榮といふ言葉はもう大變古いものではありますまいか。婦人が虛榮の權化だの何のと云はれるのですけれど、私は實に厭で御座います。婦人にばかり虛榮だの何のと仰言いますけれども、それは御無理ではありますまいか。何方かと申せば男子の方が却て虛榮心が強く、大きいのです。つまり野心といふものでございまして、女の虛榮心も男の野心といふのも實質は同じ事でせう。婦人はそれが小さいものですから、何うしても着物や姿の上にそれが現るのでございます。私は餘り近來の小說を讀んで居ませんけれども、新聞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や雜誌などて男子の方が大分女子を見て下さつて、色々批評なさるのですが、私は男の方ばかりが女子を研究せずに、是れからは婦人も男子を充分研究する事が必要でありませうと思ひます。今日迄の生活狀態では、婦人が男子を研究し批評すると云ふやうな事は餘り必要が無かつたのですけれども是れからの世の中では何うしても必要になつて參りました。

女子の虛榮心は、悪いには相違ございませんが、虛榮々々と一口に仰言らずに、此の、女の虛榮心をいゝ方に導き用ゐるといふ事が必要ではありますまいか。此の虛榮心を利用して、虛榮心が所謂虛榮心でなくなるやうに、注意して下さればよいにと思つて居ます。それから女子特有の犧牲心でございますね、此れもモッと利用する事が出來やうてはありますまいか。私はよくお話し致すのでございますが、日本の婦人は殆んど先天的に犧牲心といふものが養はれて居ます。妻が夫に對する犧牲心、母親が子に對する犧牲心などは、もう充分に養はれて居まして、世界中で一番此の點で發達して居ますのは、私は何うしても日本の婦人であらうと信じて居ます。外の國の婦は何うしても勝ちますまい。ですけれども、日本の婦人の此の犧牲の心は、多くつまらぬ處に用ひられて居まして、折角の立派な心でございますけれども、其の得られる効果から見ますれば殆んど無益になつて居ると思はれる事が多いのでございます。日本の婦人は犧牲になつて苦しむのを喜びとして居まして、何事にも直ぐ犧牲になります。例へば我が子によい衣服を着せたいと云ふ心から、母は自分の三度の食事を二度一度にしても子の爲に着物を求めてやります。そして自分は非常に苦しみを感じるのでございます。先日もよい實例を見ました。或る一人の小さい生徒が病氣か何かで久しく學校に缺席しました。それで私共は大變心配しまして二三人で訪問致しました。元來その子供は學校に參りますには餘程母親の方が注意なさると見えまして、少しも見つともない姿をして居ませんでした。それで私共は訪問のため其の町を尋ねて歩きましたのですけれども、何う探しても其の子供の家が分りませんでした。何うしても直ぐ判らねばならぬと思つたのですが何うしても分りません。仕方なしに其日は歩りましたのですけれども、何うしても氣になりますので、私は單獨で、も一度尋ねて行きました。矢張判りません。小さい小路から何迄隈なく探しましたけれども判りません。やつとこさで探し當てゝ行つて見ましたら其の家はもう實に小さい家で、長屋の裏店でございました。狹い〳〵部屋が二間しかありません。想像よりも餘り粗末でしたので此處か知らと、本當に吃驚しました。そしてお母さんがその子供の枕頭にお出てしたのですが、是れはよい例でございます。日本の婦人は本當に犧牲心が强くて隨分我慢もし又それで苦しいとも厭とも思ひません。けれども其の犧牲心が無益になる事が多いのは實に惜しい事で又殘念な點であります。此の性質をもつとよく用ひる樣に致しましたならば、と私は何時もさう思つて居ますのでございます。外國の婦人は日本人の樣には犧牲心が强はありませんのです。けれどもそれを充分に克

く用ひて居ます。私の友人で一人の米國婦人がございますがその方は敎師をして居ます。敎師でございますから、日本でも同様でございますが、餘り富裕な生活の人ではありません。けれどもその人は夏になれば毎年夫婦二人に四人の子供を連れて山に避暑に參りますのです。生活費が豐かであれば海濱などのホテルにでも參るのでせうけれども、その方は然うではありません。米國で盛んにやつて居ます御存じて彼のキャンピング——天幕生活で御座いますね、それをなさるのです。親子五六人天幕を張つて山棲ひして遊ぶなどとは如何にも呑氣な話のやうでございますが、決して然うでは御座いません。此の夏日の三四ヶ月間の天幕生活は、小供の敎育上又衛生上からも大そう有益でありまして、此の私の友人は、毎年此の方法で夏の三四ヶ月を送るのでありますが、其の間に於て子供に家外生活に興味を持たせる事、動植物に關する智識を書物によらず自然に附けてやる事、衛生上體育上有益である事などの諸點に心掛けて懇々此の方法を毎年やつて居る相であります。こうして子供の健康をよくし敎育をし乍ら、同時に自分も亦子供と同じく健康と智識とを得られるといふ鹽梅で、一擧兩得、決して自分を苦しめて迄も子供許りを樂しませやうとはせぬのでございます。日本の婦人には前に申上げましたやうに、これ程の立派な素養ある犠牲心がありますのですから、これを今迄のやうにせず、もつと利用して無益でない、効果の多い方法を以て家庭に處して行くやうにしましたらよろしからうと、私は平常から考へて居ますのでございます。

男子の方が女子の缺點を非難せずにその缺點を利用するといふ事は本當に有益な事でありまして、今日の新聞雜誌に見えて居ますやうにでなく、もつと眞面目に見て下さるやうな事は出來ますすまいか。先頃出ました女學生に對する訓戒あれにしましても大分色々と取沙汰をするものがありました。「無名通信　とかいふ雜誌でございましたか、あれを御覽になりましたか。隨分非道い批評でございましたか、あの訓戒は矢張必要ではありますすまいか。私共の幼ない時分でも然うでございましたが、斯ういふ時には斯うしてはならぬ、あゝ云ふ時にはあゝせぬやうにと、一々例を擧げて示さねば何うしても分りません。勿論あれ位の事は誰も知つて居ます。男子の前で衣服を着代えてはならぬといふ條がありますが、然ういふ無作法を誰がするものですか、と申しませう。けれども實際ある事ですから。あんなに例を擧げて云へば、自分の事がよく分るもので、自然注意するやうになるでせうと思はれます一寸とした漫畫にしても、日本のは何となく面白くございませんね。若い男女が二人散歩して居る畫を描くにしましても、外國のを見ますれば實に美くしく上品に出來て居ますやうです。西洋と日本との社會一般の程度の差が矢張それ丈け違つて居るのでございませう。

男女間の交際にしましても今日の日本は未だ何うしても彼地のやうには參りません。つまり男女交際の素養が充分てないからでございませう。今でも矢張亂暴な男子の方がござい

ますやうです。男女の間には禮儀が一番大事でございますね、女子は、禮儀ある男子を大變尊敬するものでございます。一般に必らず然うでせうと私は思ひます。けれども今の男子の方は此禮儀を重んずる事が割合に少ないやうでございます、過ちをしても婦人に謝罪るといふ事は餘りありません。此禮儀さへよく守る事が出來ましたなら誠に結構でありませう。

けれども男女間の交際といふ事は大問題でございますね。何うか世の中の方が眞面目に新聞の上雑誌の上で注意して下さるとよいのですが。何も若い男女が互ひに批評し合ふ必要はありません。年とつた、充分經驗のある方が意見を述べ、女子の缺點を注意し又之を善用する方法を敎へて頂くやうにして欲しいのでございます。（文の責は筆記者に在り）

文苑

茅ヶ崎より

山内秋生

大分暑くなりました。

昨日は御手紙を有難く拜見しました、自分からは碌々お便りもせぬ癖に、皆さんからの御手紙は何麽に嬉しく見ることとてしやう。それて自分て書くとなると何となく大儀て、厭て堪らないのです。厭だなんて我儘を申すやうですが、氣が向かなければ何するのも厭あな氣持になることが屢あります。之も病氣の所爲なんてしやう。

眞實に今時分から時にも似合はず轉地などする私。昨日も海岸を散歩して居ましたら、濱の子供が遊んて居て、私を見ると「彼の人もあれだなア」と云ふんです、一體あれとは何を云つたんてしやうと私は不思議でしたから、宿へ歸つて下の婆さんに聞いて見ますと、此邊は肺病患者が多いので、それを云つたのだそうです。人生の嘲罵、社會の外に追放されたやうな感じが胸を突いて、私は情なく思ひました。

けれども生來の虛性が、私にとつては如何に深い一面の幸福てしたらう。人の知らない――私共の活きて居る世界以外に別の天地を見ることが出來たのも、病弱の肉體を透した靈の感應に外ならなかつたので、却て私は感謝に價するものだと思ふのです。綱島さんの『病間錄』に所詮人は不治の病人である「生」と云ふ大病に苦んで、遂に死ぬより外はないと恁う云ふことが書いてありましたが、眞實に人は「生」の苦痛が、肺病よりも腦病よりも恐るべく烈しい大病なんてす。

私は恁麽ことを考へながら散歩に出ました。

散歩！　之が私の生命です。朝起きる――直ぐ出かける、病院へ通ふのが私の務めて、其他は自由です。滿足の悲哀、飽倦、そんな心が起りますと、私は何時でも濱邊へ出ます。波の響きは何時でも新らしい聲を揚げて居ます。小さい人間が自己を中心として、過去の將來のと云つた處て、無窮か

ら無窮の海、波、水、それに對して何の反響がありませう。
私は何時も海を眺める度に、人の力の恃むに足らない弱いものだといふことを痛切に思ふのです。

神様の呼吸と云つたやうな濤聲が、一打ち毎に岸の砂を搖がして居る光景を見ますと、何故か私は離愁といつたやうな感情に閉されます。ほんの瞬間の感じに止まるのですが、それが深い〳〵印象を刻むやうな氣がして、兎角瞑想に耽り安いのです。廣い意味に於て人は毎日無數の離別に接しつゝあるのです。時！　それがすでに永久の別れです、かうやつて手紙を書いて居ます間にも、一字一句の跡を辿つて時間は再會することの出來ない過去に逝つて了ふのです、人は無意味に此の時の別れを送つて居ます。

それから私共が道を歩きます、電車や汽車に乘ります、幾人と數知れない見ず知らずの人々と乘り合せます。そしてそれ等の人々とも一度別れゝば復合ふ機會の無い人が多いのです。私はそれ等の人々とを無意味に送迎したくありません、何か其處に有意味な、深い根底を有して見たいと思ひます。

恁那ことを考へながら私は夕暮の渚を往來して居ます。

雲の一圏が山のやうに群つて、その中に一つ――此世の明るさが其雲からだと云つたやうな、輝やきを示した雲の色が遠く沖合を照して居ました。

自然は美くしいてす、偉大てす。病弱の女が渚に立つて、折々に浮ぶ胸の思、低徊、そんなことは何の跡も止めずに自然は運行を續けるんですね。

私が散歩する濱邊には、茅ヶ崎に名高い砂丘が幾つとなく出來て居ます。風の吹き具合でその砂丘が種〳〵に形を代へます。私の目は何時かその形の變る樣子を觀ることが樂しみになつて來ました毎日毎日行つて見ると毎日變つて居ます。

私は無理にも恁んなことを考へて見ました。砂丘は丁度人間のやうなもので、汐風は人生です。人生は始終風が荒れます、時々風向の變ることもあります。そして人間はその風具合で種々に變つて行きます。茅ヶ崎の砂丘と鎌倉の砂丘では違ひます。十年後と十年前では人間の思想、感情の凡てが一變します。砂丘は一夜で姿を變へる、實際人間の變化はほんの刹那の閃きがその人一生涯に附纏ふことがあります。

私はまた此處で新らしい友を得ました。

清ちやんと云つて今年十三になる女の子です、九才の時から病院へ來て、今でも同じ生活を續けて居るんだそうです。清ちやんの父さんは肺病でなくなつたんだそうで、その遺傳で清ちやんも身弱なのです、母さんが病院に看護婦をして居てそれで清ちやんを養つて居るんだそうです。

病人と云ふと暗い處を想像します。清ちやんは物心附くとから幾年の間、その暗い病院生活を續けて居るのです。

もう此頃では午下りの時刻になると、清ちやんが私の處へ呼びに來ます、そして二人で濱邊へ出ます。清ちやんは習慣的に砂丘を見るのを樂しみにして、渚に近くなると足を早めて走り出しますが、直ぐ息切れがして立止ります。可愛さうに清ちやんは病人なんてす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

恰度一昨夜のことです、珍らしく海が荒れて、暴風は一夜の眠りを妨げました、その翌日です。例の如く淸ちやんと砂丘を見に參りましたところが何うでしやう。昨夜の荒れに砂丘は跡形もなく吹拂はれて了ひました。淸ちやんは失望したやうな目であちこち見て居ました。其歸りに何時になく沈んだ聲で淸ちやんが「人は何故死なゝければならないんてせう」とかう聞くのです。

幾年の病院生活に、苦悶の呻き、死の叫び、それ等の慣れた胸心は、可憐の少女をして此の疑問を發するに至らしめました。嗚呼何故人は死なしければならぬのでしやう、此の疑問は各々の人の分けて病者の寂れた心には片時離れぬ怨恨の聲ではないでせうか。

淸ちやんは可愛らしい子です。目の表情に富んだ細面の、頰にほんのりと紅のさした――病的ながら美しい子です。頭を何時もお下げにして、水色のリボンを結んで居ます。

今日も早や淸ちやんが來る時分です。かうして私は毎日毎日、否一生淸ちやんと離れたくない。

漣の聲が聞えて居ます。又私は離別の悲しさを思浮べました。

私は今は淸ちやんと樂しく暮して居ます。然し大いに嬉しいことは吃度大いに悲しいことに變ります。毎日淸ちやんと遊んで居る內にも、遠からず私等の間に離別の悲しさが來はしないか、そうした思ひに早くも私の胸は閉されます。

隨分長たらしく書きました。恰度今淸ちやんが來て、此の手紙を見て「隨分長い手紙ね」と云ひました。

茅が崎一帶の別莊の人々や、種々物珍らしいこともありますが追々お知らせ致します。

末筆ながら青野先生によろしく。

五月十三日　　茅ヶ崎にて　繁子

都の郁子樣

春雨の日の橋場

大木錦子

しと／＼とふる春雨に軒端は玉水の音しげく前の隅田川のさゝやきも平日より騷がしい椽の障子を開けて見ると大空は灰色の岩の樣な雲が幾重にも／＼重なりあふて絲のやうな細い雨が亂れてしきりに降つて河は幾分か水を增したやうだ。然し雨が降るとふだんの濁りがなくなつて水はすきとほるやうに美麗になるが、なめの生垣ごしに小松島の方を見ると六十ばかりのお婆さんが傘を重さうにさしてよぼ／＼杖をついて行く其の後から黑の吾妻コートを着て高下駄の足元もあぶなく蛇の目を半びらきとして女が小走りに行く。又大印つきの番傘をさして職人らしい男が四五人連てゆく。また其のあとから飛白の着物に紺しぼりの帶をしめてこしをからげた書生らしい人が大股で行く。たちまちお婆さんを通り過ぎ女の人を過ぎ職人らしい人も行越してさつさと行つて了つた。何

とまあ恐しい早足なのであろう。其の中男も女も見えなくなつた。只だお婆さんばかりは相變らずしぼ〳〵して中々はかどらない今の人々は皆渡し船に乘つてしまつた。車力も乘せられ、牛乳配達ものせられ、やがて掉を突つ張ると外套と傘とを載せるやうな船はすうつとでてしまつた。嗚呼お婆さんは乘り後れたのか知らん。可哀さうにと思つて、我をわすれて見て居ると、お婆さんはついと花月花壇に這入つてしまう。嗚呼馬鹿らしい今日はいつもより人通りが少ない、ボートも出ない。なんとなく淋しいが秋のさびしさとちがふて櫻花をさそふ春の雨の淋しさは實に長閑て暢やかでよい。さう思ふて眺め入つてるときに植こみの竹がさあと窓にあたつて少しばかりの風が來たから、横降りになつて來た小雨がはら〳〵家で入るので、私は驚いて雨戸をはたと閉ぢた。其の音があまり強かつたので私はハッと胸が跳つたが母樣はいつかやす〳〵おやすみなされて今の音もごぞんじないやうであつた。まあよかつた。私は此の間にと二階の部屋へいつて机の掃除を始める。其れから本箱の隅々を綺麗に掃除して清拭きをかけやうとする時、どうしたか急に胸がつかへてせくり上げるほど悲しくなつて來て涙はおかしいほどホロ〳〵頰を傳ふ。自分ながら何んでこの樣に悲しいのか少しもわからない。そう〳〵私の從妹が私の年の頃には突然なんともないのに悲しくなるくせがあつたと去る秋の頃に云ふたこともあつたと思ふ。私のも其のせいか知らん。實に馬鹿らしい殘した所をふきかけるとお孃さま〳〵と下で呼んで居るので何と飛んで下りるとチリンチリン電話がなつたので出て見ると池の端から女中がかけたのだ。妹の袷のうらがたりぬから戴きたいと云ふて來たのだ。私は母さんがおよつて被仰るからわからない、何れ其の中にといつて切つた。それから女中になんの用ときくとお母樣がお呼びて被仰いますと云ふのでお部屋て行つて伺ふと丁度今小雨だからお湯にいつて被仰いとの仰せなので、私は女中を伴れてお湯に居つた。歸へつたらもう電燈がついて卓子の上には夕の支度がすつかり並んで父樣も他からお歸りになつて火桶の前に居らしやる。ゴーと云ふけたゝましい音のするのは大方終りの蒸氣が着いたのであろう。間もなく妹が學校から歸へつて來たので皆な打よつて樂しい夕餉の席についた時腰からすの障子ごしに見ると、烟のやうな川面に都鳥が五六羽浮きつ沈みつして居るのが畫のやうに見える。雨はまだしよぼ〳〵とふつて居る。

女子青年界

◎東京女子青年會寄宿舍

安藤坂の新築寄宿舍は凡六週間前に開館せることとなるが、直ちに入舍を志願するもの多く、定員三十二名なるに已に二十二名の女子を收容せり。彼等は八ヶ所の學校に通學す。多くは神田及び本郷方面の學校なり。同寄宿舍は三年間朝鮮にて女子教育に從事せられし久富夫人の監督のもとにありて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幸福なる家庭を造りつゝあり。
同寄宿舍及び納戸町寄宿舍の寄宿生は殆んど五十名なり。尙ほ多く寄宿するを得べし。去る十二日寄宿生は其の友人を招き安藤坂寄宿舍に於て親睦會を催ほし、彼等が誇りつゝある新しき家庭を紹介せり。
寄宿舍問題につきて趣味を有せる諸君にして、此の兩寄宿舍を訪問せらるゝことを得は幸なり。又殊に當市に初めて來られる女學生を紹介せらんことを希望す。

◎女子英學塾青年會

優渥なる神の愛と會員の熱誠なる祈禱により本會も本年は生後三ヶ年を紀念するに至り益力ある活動の域に進みたるは役員初め一同の感謝に堪へざるところなり。
一、四月上旬地方より本塾入學志望にて上京せられし姉妹等十名を各停車場に出迎へ、其の宿所その他凡ての便宜を計り新入生に青年會の精神を直接間接にあらはすを得たり。
二、四月三十日新入諸姉等の歡迎會を本塾講堂に於て催し女子教育につき安孫子氏より有益なる話を聽けり。後新入生の紹介ありて一同樂しく親睦せり。
三、五月二十五日一般祈禱會を講堂に於て開き外村先生より聖靈に滿されたる生活及び氏の貧民事業につき熱誠なる話を聽き次に三四名の熱心なる祈禱あり外村先生の祈禱にて散會せり。會衆六十名一同大に力と勇氣を與へられたり。
四、日々の働き。
イ、當會にて昨年來本塾に學校用品販賣所を設置し、會員二三名(一學期交り)其の責任を負ひ多くの便利を計り盡力し居れり。ロ、右商賣の賣上げ高より每月金五十錢づゝ留岡氏の不良少年に就ての事業を贊助し居れり。ハ、本塾南北寮宿舍の青年會員に每日午後四時より六月迄電話取次ぎをなし月々舍監より五十錢を得。ニ、每月金五圓外村氏の貧民事業に寄附し居れりこれは有志會員の寄附と會計よりのたしまへなり
ホ、聖書研究は四組あり。
本科二三年の組　每金曜日午後二時半、マクドナルド先生受持、約翰傳、二十五六名。
本科一年　每木曜日午後二時半、マシュー先生受持、馬可傳。
求道者の爲め　每月第三木曜日午後二時半、元田先生受持、三十名位。
豫備科生、每週一回、役員及び會員受持、研究者四十名數ふる者十四名平均三人受持ち都合よき時間を定め、十五分又は二十分間馬可傳を研究し居れり。是れには多忙なるマクドナルド先生一方ならず盡力せらる。十四名に馬可傳の概略を印刷し且每月一回一時間をさきて敎へらる唯感謝に滿ちて至て足らざる者も力と勇氣を與へられ出來得るだけ働き居れり。
目下の會員は百六十名四月入會者四十名なり。

◎女子學院青年會

四月十五日　當校青年會役員改選せり。會長　三浦次代、副會長　光田ミサ、會計　星野安、書記　小林ミサホ。
五月二日　午後七時祈禱會を開く。題意は感謝の生涯なりき、猶本會は同四月七名の卒業生を送り十三名の新入會員を得たり。
司會者　飯塚姉。
五月九日　の祈禱會は默想と活動と題し、司會者は植村姉なりき。
五月十六日　聖書研究會を開く。此期より新約聖書中の婦人の性格を研究することに決したるを以て先づ聖母マリヤの研究をミス、キャンベル司會の下に始む。
五月二十三日　聖書研究を開く。題はベタニヤのマリヤとマ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ルタにて、司會者小林姉。
五月卅日　の祈禱會の趣意は眞の悔改にて内藤姉司會せり。

◎小石川女子傳道學校青年會

會の總數十一回、内講話會二回、役員祈禱會四回、經驗會四回、送別會一回、集會總人員百九十五名、内客員十九名。
四月十二日　午後三時半より當教會バアシフカインド教師の爲め送別會を開き五時閉會す。
本月二名の新入會員を得たり。

◎共立女學校青年會

五月十四日　東京本部青年會幹事マクドナルド孃來校、本會委員に對して、一　東京女子青年會にて設立したる寄宿舍の爲め祈禱する事、二　聖書研究會を設くる事の上策なること、三、從來本會々員にして一旦校を退ける者には彼等と本會との聯絡を保つ爲め毎月一回聖句を認めたる葉書を送る事、但し未信者をして特に此勞を執らしむる事、若し退學者にして東京に住する時は彼等の姓名を本部に通告すべき事などを話され、又本會各部に就きては、傳道部は日曜學校事業の外に琉球、韓國の如き外國傳道事業をも助くるは如何に、矯風部に時々事業に就きて名士に講話を依賴する事、祈禱部は時を定めて小集祈禱をなすこと、慈善部は傳道部と合併しては如何との注文を與へられたり。此等の注意は猶本會役員會にて評議の上取捨する所あるべし。
五月十九日　午後三時半例會を開く、協議決定せる所左の如し。一、傳道部會計畑中光子死去に就き其後を大場サイ子に依賴する事、二、慈善部書記橋本ミヨ子退學に就て津田キミ子其後任者となす事。

◎フエリス女學校青年會

四月二十三日　金曜日夜七時より本會總會を開く、正會員の出席せるもの三十五名、廣瀨會長の祈禱をもて開會、各役員の報告あり。現在會員總數　百五十名、内正會員　四十名、準會員　百十名
滿期役員の改選を行ふ。會長　廣瀨ふさ、副會長　荻野すり會計　河村とし、書記　服部英代、會員誘導員　林さだ、小菅みつ、聖書研究委員　ミス、カイパル、傳道委員　關屋しん、和田しの、祈禱會委員　奥山有志、渡邊ふみ、親睦會委員　金田かめよ、井上みほ、鈴木さだ、永野なほし、裁縫掛　小菅みつ、金田龜代、小川ひで、賣物掛　武松たみ、桐田せい、栗原わか、
後議事に移る、可決されし事項左の如し
一、市内外併せて七ヶ所の日曜學校を繼續すること
一、經費補助の目的をもて從來隔週金曜日に開きし裁縫集會は今後毎週開くこと
一、寄宿生の修養の爲隔週開きし青年會は毎月一回第二金曜日に開會すること
一、相互の親睦を謀る爲め各級に開かるゝ集會は更に小分して十人づゝの集會となし隔週之を開催すること
其他二三の動議提出されしも可決に至らずして散會せり。

◎ウヰルミナ女學校青年會

五月五日　水曜日午後二時四十分より各級祈禱會を開く、祈禱の題「眞の幸福」今本科五年級の會況を報告す。司會者服部かじ、一同默禱、讃美歌　二百六十六番、聖書朗讀　馬太五。一―十二、祈禱、感話、猶有志者數名の感話、聖句朗讀祈禱あり、左に西野教師の勸話の大略を揭ぐ、一人は皆幸福

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を得んとして晝夜あせつて居ること丁度獲物の後を追ふ獵師の様な者である、而して其幸福を得るには道あり、即ちそはキリストが山上の說敎に於て第一に敎へ給ひし所にして富に非ず、名に非ず、位に非ず、唯正義を求め、人を愛し、神に事ふることなり」と、一同主の祈を唱へて閉會す、

五月十二日「祈禱の應驗」の題の下に總祈禱會を開く、司會者高島會長、讃美歌二百四十二番、聖書朗讀 馬太、七〇七―十二、祈と成功(鈴木姉)密室の祈(桑田姉)其他數名の感話あり。

五月二十六日 午後二時四十分大阪北敎會牧師桑田氏の講演あり其の大意は、第一婦人の虛榮心を誡むべし。(イザヤ書第三章六節以下及テモテ前書二章九章以下) 衣服は其收入の高に應じてなすべし、親の臑を嚙て居る學生が華美な衣服を着くべき法なし、衣服は宜しく質素丈夫なるを旨とし流行る追ふべからず、之を爲すは己の輕薄なるを示すものなり 裝飾は餘裕の金を以て施すべきなり、然れ共世には爲さゞるべからざる善事業にして唯金なきが爲に着手されざる者多し、裝飾に費す金有らば宜しく先づ其等の有益なる事業に資すべし、第二淺薄なる樂天家を誡む(イザヤ書二十二章九節以下)思慮なき婦人は家庭を動物檻となす(箴言第一章二十一節)婦人の背後には犯罪あり、勇豪あり、婦人は犯罪者も偉人をも作り得る力を有す、第三婦人は沈默なるべし (テモテ前書三章十一節)エマルソン氏曰く人は己の言を以て己を審さすと。(箴言九章十一節)「彼此事を心にとめおけり」「彼此事を心に心ひめぐらせり」此二句は以て我等が聖母の品格を覘ふに足るべし。イエスはマクダラのマリヤを愛し彼等姉妹の家は主の好み給ひし所なり、終り迄主に從ひて其十字架の下に來りしは婦人等なり、イエスの婦人に對する態度は公平にして而も其美點を認めこれに相當の位置を與へ給へり。現今婦人の地位定らず、婦人の地位を挽回すべきは目下敎育受けつゝある婦人殊に基督敎々育の下に養育さるゝ諸姉の任なり、基督敎は全き婦人を作り之に正當なる位置を與ふ、此重任を負ふべき若き婦人は自ら大に反省して虛榮心を去り輕薄を誡め沈默を守りて以て其實を社會に發揮せんことを期すべしといふにありき。本月の役員會は月末に延したり依て五月の議事は次回報告すべし。

◎宮城女學校女子青年會

去ぬる三月二十五日午後一時、役員の改選を行ひたり。讃美、聖書朗讀、祈禱、讃美の後、出席者の氏名を點呼し、役員の選擧を行ふ。當選者は會長及川なほ子、副會長赤澤さわ、書記黑澤ふくす 通信書記吉田ふぢ、誘導員萱間うた、集會員芳賀久代、親睦員高橋つねなり。委員は誘導委員に齋藤まさの、龜井こと、相原さき、二階堂さだ、縣會委員に相澤こう、小野寺みさよ、親睦委員に大澤かめ、加藤よしの、金子きよ大石ふみ擧げらる。

同二十八日午後三時宮城女學校自習室に役員會を開き、會長の祈禱の後、青年の事業につきて協議せり。即ち正會員準會員求道者知己友人の中に疾病ある時は役員委員の中より之を見舞ふこと。毎月一回市內各女學校を招待し宮城女學校(仙臺市三番町)講堂內に於て青年女子基督敎感話會を開くこと毎月一回第二水曜日午後三時より宮城女學校講堂に於て女子青年會祈禱感話會を開くこと。年を一學期に分ち、一學期毎に牧師を依賴し全校及び有志者を招待し當校にて祈禱會を開くこと。一學期毎に一回音樂會を催ほし其の純益を以て青年會に要する費用に充つること。

毎月一回開く祈禱會には二百十五名の來會者ありて、常に時の移るを忘るゝばかりに靈的の集會なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五月二十九日午後二時より宮城女學校講堂に於て各女學校を招待し感話會を開く。芳賀久代孃の司會にて、一同讃美し、會長聖書朗讀の後廣岡いと孃祈禱をさゝげ、二たび讃美し、會長の開會の辭あり、ミラー校長の說敎に次て有志者の四部合唱あり、梶原敎師の奬勵あり、再び四部合唱あり、感話するもの四人、萱間うん孃閉會の辭を述べ、校長の祝辭にて終れり來會者會員百五十名、各女學校より百二名、合計二百五十二名なりき。會終りて互に胸襟を開きて語り、歡迎の意をこめて茶菓を饗し、餘興もありて談笑すること約四十分。かくて散會せるは六時半頃なりき。當日はいづこも授業あるにかゝはらずミションスクウル以外の女學校より多くの來會者ありて盛大なる集會を見るを得たるは感謝の外なし。

◎海外女子青年會の活動

▲巴里　巴里は人よく知れる如く世界に於ける最大なる美術中心の一にして校區と稱する部分に於ては美術硏究の爲め、世界各國より遊學せる男女の數甚多し。而して此等の美術學生の道德的情態については、憂ふべきこと少なしとせざるが其の大原因は良き社會と交際するの機會なきにあり。二三年前より女子靑年會は此等の人々の爲めに寄宿舍を設くるの必要を感じ、已に一個所の寄宿舍を開きたり。是れは單に寄宿の爲めのみならず、社交の中心ともなるべき目的にて、智的のみならず、社交的靈的の助けを受け得べし。現今寄宿せる學生は十二ヶ國を代表し居ることを見ても其の感化の將來遠く及ぶことを察し得べし。

▲支那　支那の上流社會の婦人を敎育する爲めに學校の開かれたるは、僅かに數年前のことにして需要に照らせば尙ほ甚だ不十分なれども、兎に角端緖は開かれたり。萬國女子靑年會幹事ミス、スペンサアは此の頃支那各都府を巡遊し、各地の女學校を參觀したるが、天津より寄せたる書翰のうちに其の一端を記しあり。天津に宗敎學校の數は少なきに反し、官立の學校は十九あり。一は高等の女學校にして二人の支那婦人之が敎師たり。其の一人は福州の宗敎學校の卒業生なり。支那婦人には敎師たる學力あるものは得難ければ、自から宗敎學校の卒業生の敎師として聘用せらるゝ機會多し。工業學校には二人の日本人の敎師之を敎授し、幼稚園は日本式にて敎へらるゝを見たり。女子青年會は支那にても已に事業に着手し、上海に於ける諸學校の女學生を糾合するの事業を始めたり。支那に於ける新しき氣運は婦人に大いなる影響あることを疑ひを容れず。纏足反對の運動は着々勢力を增しつゝあり。之と共に精神上の自由も追々に發揮せらるべし。此は支那婦人に取りて大いなる希望の時機たるとともに危險をも伴はずんばあらず。之が爲めには日本の基督敎の婦人にして此の好機會を見るを得ば甚だ好き事業を爲すを得べし。

▲米國　米國の女子青年會の爲しつゝある實際的事業のうち大いなる製造地にて爲さるゝ事業に優りて重大なるものあらず。多くの女工を使用せる地に於て青年會は飮食店を開き、廉價にて適當の食物を得らるゝ道を設けたり。每週二度、或は數回中食後に女工を招き、種々の有益なる話を聞かしむ。雇主も其結果の良好なるを認めつゝあり。

▲南米　ブエノスアイレス（アルゼンチン共和國の都府）に於て事業を開始したるは三年以前のことなるが、此の事業は大いなる需要ありて屢ば會館を大いなる場所に移せり。此の都府は非常に世界的の都府にして十二ヶ國の婦人が同時に寄宿舍內に住むを見ること珍しからず。南米の如き良き感化の乏しき國に於ては、婦人の情態は甚だ危險にして助けを要すること甚だ急なり。今日の會館は十七の室ありて、都府の中央にあるが故に、一ヶ月二百圓の家賃を拂はざるべからず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

YOUNG WOMEN
OF
JAPAN

Vol. VI *June 1909* *No. VI.*

Mrs. H. Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A. G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Members
Miss A. B. West	Miss K. Tristram, Osaka
Dr. Tomo Inouye	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Miss Hama Hirano	Mrs. Ito Saiki, Kyoto
Mrs. Koharu Nakajima	Miss F. D. Denton, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss Wynne Willson, Nogoya.
Miss Sarah Ellis	Miss Charlotte De Forrest, Kobe.

Miss A. Caroline Macdonald, General Secretary
Miss M. L. Matthew, Tokyo Secretary
Headquarters :— 15 Dote Sanbancho, Kojimachi, Tokyo

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾銭一部郵税共金五銭とす。
一、日本基督教女子青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長 井深花子
副委員長 岡見恵子
記録書記 エ、ジー、ルイス
會計 フィシャー
萬國基督教女子青年會同盟委員 河井道子
萬國學生基督教同盟會委員 宮川すみ子

東京在住委員
エ、ビー、ウエスト 井上友子
平野濱子 鈴木歌子
中島小春 サノ、エリス

地方在住委員
大阪 ケー、ツリスツラム 京都 佐伯いと
京都 デントン 名古屋 ウインウイルソン
廣島 エヌ、ジー、ゲインス 神戸 デフヲレスト

日本女子基督教青年會幹事 エー、シー、マクドナルド
同副幹事 エムエル、マシウ

明治四十二年六月十五日發行（毎月一回十五日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. VI. *June 1909.* *No. VI.*

CONTENTS

EDITORIALS:—

In Midway of Year.

The Summer Conference.

Sermons:—

Way to minister — Rev. H. Yamamoto.

Biographies:—

Hildegart, the Prophetess — Rev. T. Shirai.

Bible Studies:—

Philippians (II) — Prof. E. Kashiwai.

Notes on Bible Study — Miss. A. C. Macdonald.

Still Hours:—

Teaching of Thomas à Kempis.

Miscellaneous:—

Observations and Remarks — Miss. Michi Kawai.

Reports:—

（東京神田美土代町 三秀舍印行）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA